



第60回 建築士会全国大会「京都大会」のご案内

山とまちと木造建築



第60回建築士会全国大会京都大会 主管 衛藤照夫
一般社団法人 京都府建築士会 会長

ようこそ、京都大会へ。

私たちは、建築士として、建築士会として京都で開催するにふさわしい大会とすべく、3年前から「山とまちと木造建築」というテーマを定め準備して参りました。

時は2014年8月のキックオフミーティングにさかのぼります。これは木造建築をとりまく環境・経済・技術を整理し未来につなげていく12のキーワードを、12人のスピーカーの方々が語り継ぐリレートークでした。

これらのキーワードを受けて、林業の現況からまちへの木材の流れを見学会や勉強会を通して学びました。そのまとめとして2015年8月にアクションミーティングを開催。8つの対語キーワードをめぐるショートスピーチとワークショップで「山とまちをつなぐ木造建築の可能性」を探りました。

2016年12月には同じく「山とまちと木造建築」をテーマに、近畿建築祭京都大会において近畿各地の実践報告が行われました。ここでは近畿における課題と取り組みを共有するとともに、1年後の全国大会に向けた機運が高められたと感じています。

「山とまちと木造建築」というテーマは、単に木造建築ブームに乗るものでも木材利用促進をめざすだけのものではありません。日本人が長い時を経て培ってきた暮らしの知恵、さらには文化や美意識は、木造建築を中心に育まれてきたという事実を基に、未来の建築と暮らしを考えるものです。科学技術の進歩により建築の持つ役割が細分化されブラックボックス化している現状の中、おしきせの建築に住まわされ消費しつくすことでは得られない生活のよろこびが、木造建築に内包されているのです。

日本各地でそれぞれの気候風土に合った多様な木造建築が継承され現存し、また新たな木造建築の形が提案されています。京都では京町家に代表される木造建築が連担して京都らしい景観を形成しています。木造建築に見られる^{かなめ}長い時間をかけて培われた暮らしの知恵、が、これからの景観まちづくりにとっても要ではないでしょうか。

全国大会は全国の建築士をはじめ、多くの方々が広く課題を共有・考察することができる大会です。みなさまにこの京都大会にご参加いただくことで、すでに各地で取り組まれている木造建築と暮らし、山とまちをつなぐ活動に新たな展開となる何かを持ち帰っていただければ幸いです。

遠方より京都にお越しいただきますみなさまには、どうか京のまちや自然を存分に満喫してください。そして共に語り合える時間を共有いたしましょう。